

教育研究体制の整備

2005～2007年度教員業績評価

工学研究院では、工学研究院・工学府・工学部における教育研究の成果をより高めることを基本的な目的として、他部局に先駆けて助手以上の常勤教員を対象とする教員業績調査を2003年4月に開始し、2005年度に第1回の教員業績評価を実施しましたが、2008年度は2005～2007年度（研究に関しては2003～2007年度）の教員業績調査に基づく第2回目の工学研究院教員業績評価を実施しました。

工学研究院における教員業績調査と教員業績評価の目的と実施方法は、2003年2月17日開催の工学研究院教授総会において承認されており、工学研究院所属の常勤教員（教授、准教授、講師、助教、研究教員、特別研究教員、助手）は前年度の「教育」、「社会貢献」および「管理運営」に関する教員業績調査票を毎年工学研究院長に提出することが義務付けられています。さらに3年に1度、教員業績評価を実施する年度には「教育」、「社会貢献」、「管理運営」のほかに「研究」に関しては過去5年分の教員業績調査票を工学研究院長に提出することになっています。教員業績評価の具体的

な実施方法と評価結果の取扱いについては、2004年10月22日の工学研究院代議員会において承認されており、当該教員が所属する学科等の実情を熟知した複数の内部評価委員によって評価が行われました。評点区分および評価基準は細分化せずに、「教育」、「研究」、「社会貢献」および「管理運営」の各評価対象項目ごとに「S：群を抜いて貢献している」、「A：貢献している」、「B：貢献が不十分であり改善の必要がある」の3段階による評価が行われており、評価結果は特別昇給や勤勉手当に反映されることになっています。

「教育」に関する教員業績調査票は3年に1度の工学部ベストティーチャー選考ならびに毎年の全学ベストティーチャー候補者推薦の基礎資料としても利用されますが、そのために環境情報研究院ならびに未来情報通信医療社会基盤センターの工学部担当教員にも「工学部教育」に関する教員業績調査票を提出していただいております。

工学研究院の教員業績評価は3年ごとに行われ、次回は2011年度に実施を予定しています。

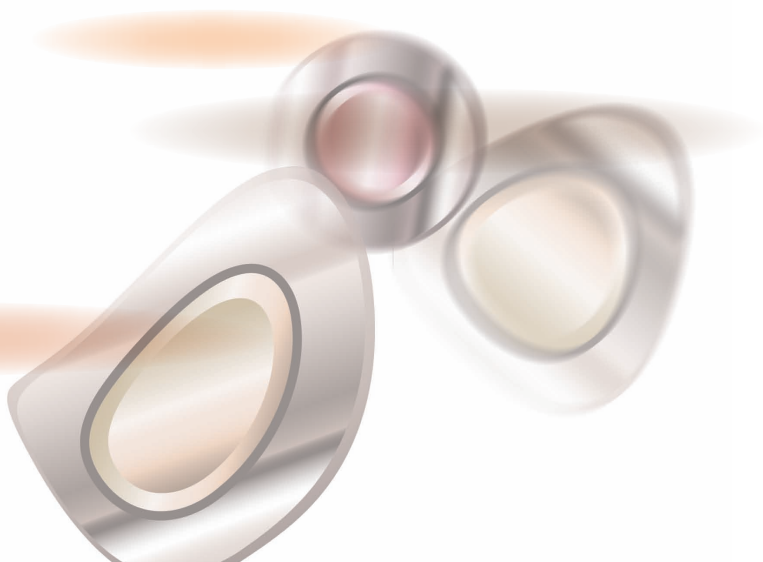
中期目標期間の業務の実績に関する評価

全国の国立大学法人における2004年度から2007年度までの4年間の業務の実績について、国立大学法人評価委員会が評価（通称、法人評価）を実施しました。本学も、2008年度に法人評価を受審しました。具体的には、教育、研究、業務運営、財務内容の状況等について、中期目標の達成状況等の調査・分析にもとづいて、評価が実施されました。

工学部・工学府・工学研究院では、工学部・工学府・工学研究院法人評価専門委員会（H2委員会）と法人評価資料データ準備WGを設置し、受審準備にあたりました。自己点検書として、「工学部の教育」、「工学府の教育」、「工学部・

工学研究院の研究」について自己点検書を作成し、2008年11月17日（月）、18日（火）の訪問調査への対応を行いました。評価結果は、2009年3月26日に国立大学法人評価委員会より公表されました。

評価結果は、「期待される水準にある」、「期待される水準を上回る」、「大きく改善、向上している」であると評価されました。特に、工学部・工学研究院の研究成果の状況は「期待される水準を大きく上回る」と、非常に高く評価されました。



教育研究組織の現状

工学研究院

工学研究院に関わる教員により構成される組織で、3部門からなり、所属教員総数217名の内訳は右表の通りです。

| 所属教員数 2009年5月1日現在 ()内は2009年1月1日現在 | | | | | | | | |
|------------------------------------|---------|---------|-------|-------|---------|--------|-------|---------|
| 研究部門 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 特別研究教員 | 研究教員 | 助手 | 客員* |
| 機能の創生部門 | 25 (25) | 18 (20) | 3 (3) | 2 (2) | 12 (13) | 4 (3) | 1 (1) | 6 (6) |
| システムの創生部門 | 33 (31) | 20 (23) | 4 (4) | 1 (1) | 11 (13) | 2 (0) | 1 (1) | 4 (4) |
| 知的構造の創生部門 | 23 (26) | 19 (19) | 1 (1) | 4 (3) | 12 (12) | 5 (2) | 3 (4) | 3 (3) |
| 合計 | 81 (82) | 57 (62) | 8 (8) | 7 (6) | 35 (38) | 11 (5) | 5 (6) | 13 (13) |

客員*は連携講座の客員教授・客員准教授

工学府

工学に関する大学院教育を行う組織で、4専攻(9コース)からなり、在籍学生総数1,017名の内訳は右表の通りです。

| 所属大学院生数 2009年5月1日現在 ()内は2008年5月1日現在 | | |
|--|-----------|-----------|
| 専攻(コース) | 博士課程前期学生数 | 博士課程後期学生数 |
| 機能発現工学専攻 (先端物質化学、物質とエネルギーの創生工学) | 207 (213) | 37 (40) |
| システム統合工学専攻 (機械システム工学、海洋宇宙システム工学、材料設計工学) | 214 (223) | 56 (59) |
| 社会空間システム学専攻 (建設システム工学、建築学) | 140 (153) | 31 (24) |
| 物理情報工学専攻 (電気電子ネットワーク、物理工学) | 289 (277) | 43 (43) |
| 合計 | 850 (866) | 167 (166) |

工学部

工学に関わる学部教育を行う組織で、5学科より構成され、在籍学生総数は右表通りです。工学部の専門教育は環境情報学府の教員の協力も得る体制の下に行っています。

| 所属学部生数 2009年5月1日現在 ()内は2008年5月1日現在 | | |
|--|---------------|----------|
| 学科 | 学生数 | 第二部学生数 |
| 生産工学科 | 630 (638) | 41 (61) |
| 物質工学科 | 667 (664) | 46 (57) |
| 建設学科 (シビルエンジニアリングコース、建築学コース、海洋空間のシステムデザインコース) | 616 (615) | |
| 電子情報工学科 | 665 (682) | |
| 知能物理工学科 | 404 (397) | |
| 合計 | 2,982 (2,996) | 87 (118) |

事務系職員

(2009年5月1日現在 ()内は2008年5月1日現在)

事務部および各学科等に所属する事務職員は27(27)名、技術部に所属する技術職員は26(27)名です。

財務の現状

工学研究院の教育研究費(人件費を除く)の過去3力年の財務状況(決算)は下記のとおりです。

人件費を除く教育研究費(単位:千円)

| | 2008年度 | | 2007年度 | | 2006年度 | |
|--------------------------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 運営費交付金 | — | 769,405 | — | 741,217 | — | 776,324 |
| 科学研究費補助金 | 89 | 362,326 | 115 | 412,050 | 125 | 471,730 |
| GCOE経費 (2006年度はCOE経費) | 1 | 136,950 | | | 1 | 97,482 |
| その他の補助金 | 12 | 95,163 | 8 | 78,692 | 5 | 67,746 |
| 共同研究費 | 106 | 178,155 | 109 | 226,564 | 86 | 219,875 |
| 受託研究費 | 51 | 504,264 | 55 | 613,193 | 46 | 220,970 |
| 寄付金受入額 | 214 | 177,019 | 198 | 157,794 | 206 | 163,329 |
| 合計 | 473 | 2,223,282 | 485 | 2,229,510 | 469 | 2,017,456 |